

# 住んで良かったと言える堺市に

2015年

## 社会保障の充実を 求める要望運動

毎年粘り強く続けている堺市への社会保障充実を求める要望運動、今年も同仁会は堺市社会保障推進協議会と共に取り組んでいます。この間の運動で今年度の国民健康保険料は、初めての所得層でも引き下げを実現することができました！これは貯めこんでいた基金の一部を堺市が国保財政に繰り入れたことによるものです。全国20政令市の中ではまだまだ高い保険料ですが、毎年要望署名を提出し行政との話し合いを継続してきた成果です。

2015年の要望項目は、高すぎる国保料・介護保険料の引き下げや減免制度などの改善・拡充、また子育て支援・障がい者施策・健診・生活保護に関して改善・拡充を求めるなど6項目です。同仁会をはじめ様々な加盟団体が力を合わせて、秋の市議会に向けて宣伝運動を広げています。毎月1回の各区分伝は6月～10月まで行います。(原則は毎月、第2金曜日の午後12時～1時)堺区と西区は同仁会が責任団体です。



対市交渉の様子

**8月3日対市交渉**  
この要望項目に沿った話し合いを行いました。市の担当課より11課27名、同仁会からは10名が参加しました。介護保険事業部のケアマネ・ヘルパーより2019年4月から自治体の責任で実施される介護保険の総合支援事業の進捗状況や8

月から改善された入所施設補給金について、介護保険課の回答は「現行サービスの質を落とすことなく支援できるように準備している」「預貯金調査については認知症など管理が困難な方には地域包括支援センターにお願いしたい」との内容でした。また総合病院健診課からは「市の低い健診率を上げるためにはより安価で分かりやすく使いやすいものに」と改善を求めて要望しました。堺市健康医療推進課からは「健診について無料は考えていない。他の自治体の取り組みも学んでいきたい」との答弁。他市では全て無料で実施しているところがあり、学ぶべき自治体のあることを指摘しました。

医療・介護現場からの切実な声を伝える場となりました。年1回の話し合いだけでは、なかなか進みませんが、今後必要に応じて担当課と話し合いの場を多くもち粘り強く、要求実現をめざして運動していきます。



堺区での宣伝行動



お知らせ

受診予約のない整形外科受診を希望される患者さまへ



### 9月より みみはら高砂クリニックに 整形外科外来を開設します

総合病院の整形外科では事前予約の患者さまの診察を優先していたため、予約なしで直接来院された方の待ち時間が大変長くなっていました。そこで9月(9月7日)より「みみはら高砂クリニック」に整形外科外来を開設します。

高砂クリニック整形外科 9月7日(月)より開設  
毎週(月)(水) ※祝日は休診  
受付時間帯 午後1時30分～3時30分

「整形外科受診が初めての方」または「総合病院整形外科の最後の受診から1年以上経過している方」はみみはら高砂クリニックの整形外科を受診下さい。  
※他の医療機関からの紹介状をお持ちの場合は、総合病院の「紹介センター(TEL072-241-0324)」にお電話下さい。総合病院整形外科の予約をおとりします。

### シリーズ 現場からの 視点

事例 その6

## のびやかに、住み慣れた家での暮らしを続けるために

### — 訪問リハビリ —

#### 訪問リハビリ セッションとは?

訪問リハビリテーション(以後・訪問リハ)は、通院が困難な方に対して本人の症状や自宅の構造、家族の介護状況などを考慮しながら、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などのリハビリテーションの専門家が在宅を訪問して行います。

寝たきり状態を防ぐためなどにリハビリテーションが必要であると医師から判断された方に、自分ができることを増やして生活範囲

を広げたり、日常生活に合った訓練や介助の仕方・環境整備など、専門家の観点から療養上必要な指導を行います。

#### 外出して買い物できるようにしたAさん

化膿性脊椎炎で入院されていたAさん。2時間程度なら座っていることはできましたが、それ以上になると腰痛がひどくなり時には吐き気が強くなっていました。退院後は、買い物をご自身で行きたいとの強い希望をお持ちのAさんに訪問リハを通して指導・援助を行うことになりました。

まず、腰痛や吐き気の軽減・ベッド周囲の環境の整備に着手しました。吐き気は服薬が変更となったことで徐々に軽減していきました。腰痛に関しては、理学療法士がいなくてもできる自主トレや動作指導などを行い、伝い歩き・歩行器での歩行ができるまで痛みが軽減しました。また、生活環境の整備として、歩行器レンタル、トイレやお風呂、玄関から門までの手すりを設置し、自宅内は一人で生活することが可能となりました。また、Aさんの願ひであった買い物も、外出する時は家族が車を出し、店内では休憩を入れながら買い物カートを押して歩くことを指導した結果、実現できました。

このように訪問リハでは医療スタッフだけでなくご家族やケアマネさんなども協力しながら、その方の生活に寄り添った機能の向上・維持をめざしています。